

アドバイザー紹介

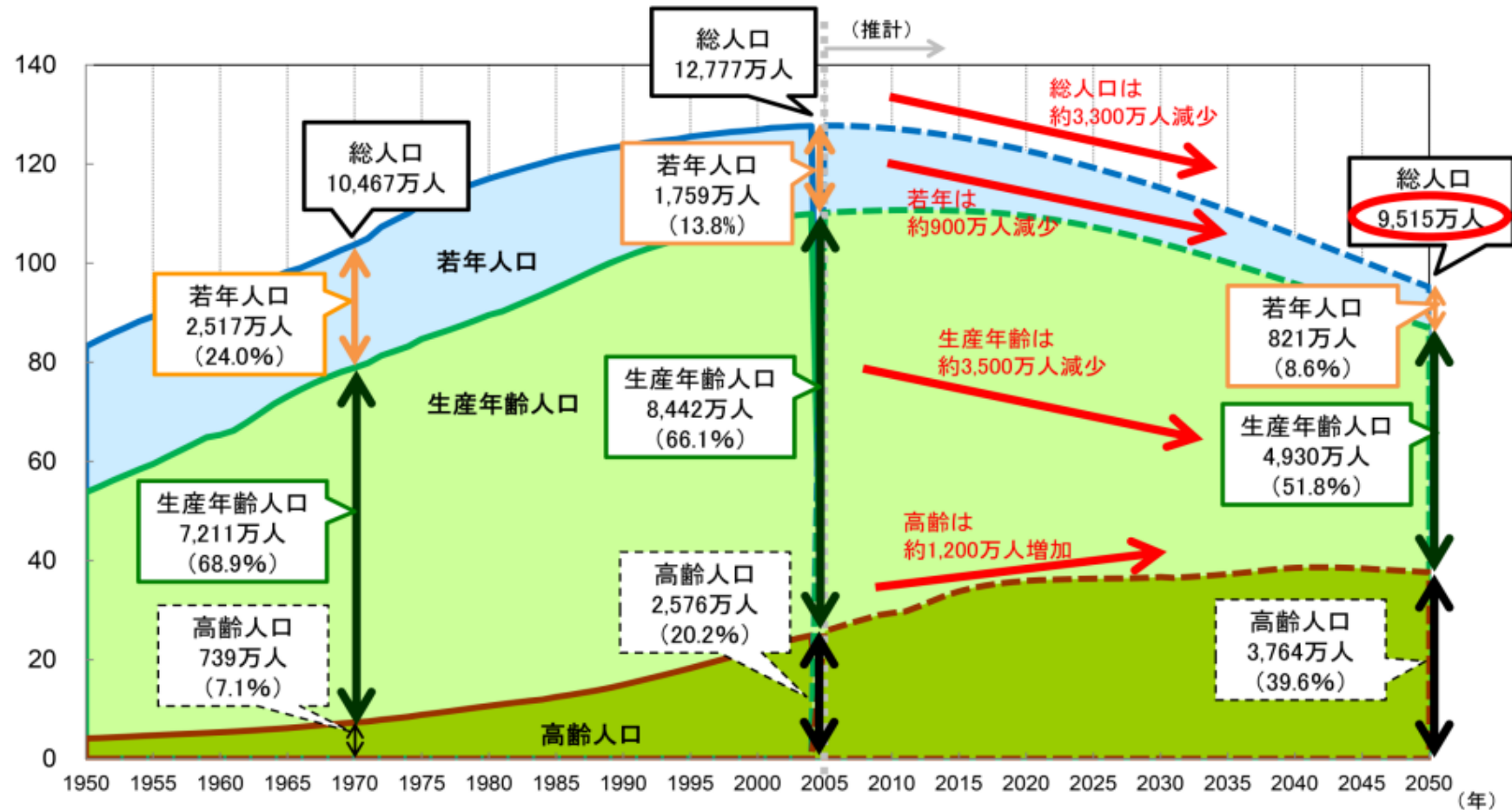
北九州市官民対話テーブル

株式会社インディードリクルートパートナーズ

▶現在の採用難は、人口減少と高齢化が原因

2050年には、**約3,300万人（約25.5%）**の人口減少

労働の担い手である**生産年齢人口**は、**約3,500万人の減少**となり、**高齢化率は約40%**



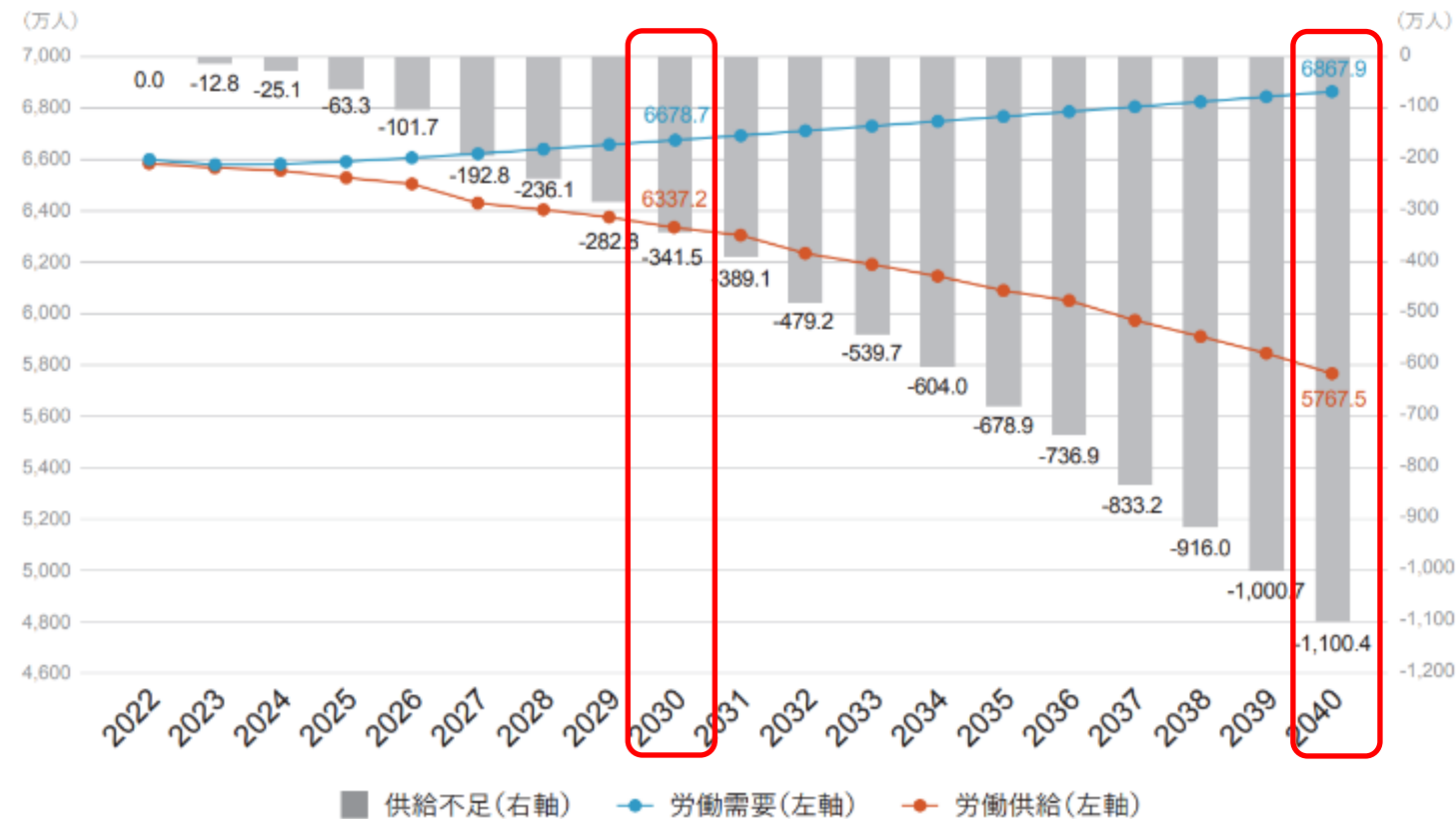
(注1) 「生産年齢人口」は15～64歳の者の人口、「高齢人口」は65歳以上の者の人口
(注2) () 内は若年人口、生産年齢人口、高齢人口がそれぞれ総人口のうち占める割合

(注3) 2005年は、年齢不詳の人口を各歳別に按分して含めている
(注4) 1950～1969、1971年は沖縄を含まない

▶労働力不足は、今後も加速度的に進み労働供給制約社会が訪れている

2025年時点の全国の労働力不足は約63.3万人
現在の状態が続くと、2040年には約1,100.4万人の労働力不足に陥る見立てが算出されている
福岡県においても、2040年には約32.8万人の労働力不足に陥る

労働需給シミュレーション



福岡県の労働需給シミュレーション

		福岡県
2030年	労働需給ギャップ ^o	-7.49
	不足率	2.9%
2040年	労働需給ギャップ ^o	-32.85
	不足率	12.1%

参照元：リクルートワークス研究所 未来予測2040

▶労働供給制約社会における4つの対策

労働共有制約社会において以下の4つの対策が提示されている
対策が推進されることで、2040年での労働力不足は約493.6万人となり約10年遅らせることが出来ると言われている。今回のテーマは、多様な人材の活躍について

①徹底的な機械化・自動化

「人」でなくてもできる仕事、労働力の機械化、自動化による生産性向上

②ワーキッシュアクト (Workish act)

何か社会に対して提供しているかもしれない、本業以外の活動による労働力の確保
Ex.収入を伴う副業・兼業、地域活動、農作業や自然保全などの活動、地域清掃など。

③シニアの小さな活動

潜在労働力層への活躍の場の提供による労働力の確保

④待ったなしの無駄改革

業務項目、内容の見直し、ムダ業務の廃止による生産性向上